

人生最高のサブスクリプション

高橋哲也 准教授

(人的資源管理論)

大学における「レポート」とは教員から課されたテーマについての報告書のことである。レポートとは何かについて詳しくは1年生のゼミの講義内で聞いてもらいたい、簡単に言えば上記の通りである。報告書であるからには、感想文とは異なる。報告書作成のためには、情報を収集し、その事実に基づき文書を作成することが求められる。この際に重要となるのが、そうした情報をどこで収集し、さらに事実に基づく情報とは何かという点である。事実に基づく情報は「エビデンス」と呼ばれることもある。エビデンスの無い文書を提出しても、それは評価の対象外となることが想像される。エビデンスはどこで獲得できるのか考えてみよう。

講義にてレポート課題を出された学生は、まず始めにネットで検索をされると思われる。Googleで検索しWikipediaに行き当たり、そこに記載のある文言を転記する学生もいるかもしれない。このあたりの情報で満足するようでは、「メディアリテラシー」が低いと言われてしまう上に、レポートでは「剽窃」となってしまう場合もある。文字の読み書きが出来る技能をリテラシーと言うとすれば、メディアリテラシーとはネット上の情報を正しく使える技能と言える。近年は書籍や論文の電子化も進んでおり、書籍もオンラインで閲覧可能となっている点から、Googleの検索結果のみならず書籍もメディアに含めて考えよう。メディアとは媒介物を意味しており、その点では書籍もメディアであるのは当然のことでもある。エビデンスの獲得にはメディアリテラシーが必要となりそうである。

メディアリテラシーを考える上で問題は二点ある。ひとつにはネットで検索結果を正しい情報として鵜呑みにしてしまうこと、もうひとつはネットや書籍の情報を出典不明で使用してしまうことである。大学生活を生き抜くためにはこうした二つの問題に対処するためのスキルを身につけておく必要がある。まず内容の真偽についての危険性について注意すべきである。ネットでの検索結果の内容を検討せずに引用してはならない。次に剽窃の危険性がある。レポートに引用箇所の記載の無いコピー（copy and paste）をしてはならない。レポート課題においての剽窃は当該授業の単位認定がされないばかりか、履修した一年間の全単位が認定されない可能性もある。ネットの記事はクリック一つでコピーできるだけに、切羽詰まった学生は安易にその方法を選択し、適切な引用を記載せず使用して

しまう場合もあり得る。メディアリテラシーが身に付いていないとエビデンスの獲得はおろか、自らを窮地に追い込む可能性すらあるのだ。そうしたメディアリテラシーの修得とエビデンスの獲得のために大学図書館が大きな役割を果たす点について確認したい。

大学図書館には書籍しかないと思いがちであるが、様々な DVD などの映像資料のみならずオンラインデータベースも所蔵されている。データベースに記載されている情報は Google で検索しても入手できない情報ばかりであり、レポート作成への貴重な情報源となっている。ネット社会が急速に進展する中で情報が過多になりつつあり、日頃目にする情報にばかり関心が向く傾向も強い。大学図書館には 100 年以上にわたって蓄積された書籍があるのはもちろんであるが、データベースのようなネットには無い情報が図書館にはある。また図書館の情報は自宅からオンラインで閲覧できるようになりつつあり、自宅から資料を閲覧できるようになる傾向は強まっている。レポートで資料が見つからないというのは、もしかすると見つける方法を知らないだけかもしれない。その際には図書館には司書という専門職の方が常駐しているので相談するといい。図書館にある書籍やデータベースなどを使用して作成したレポートは単なる感想文とは異なり、エビデンスに基づいた事実について説明した文書となっていることであろう。SNS に代表されるネット情報と図書館に所蔵されている情報を比べて、大学生としてのメディアリテラシーを身につけて社会に出て行くことが大卒としての矜持を保つための分岐点かもしれない。

人生における大学図書館との繋がりについて説明して終わりたい。大学図書館は「サブスクリプション」である。いわゆるサブスクであり、こう書くと何やら怪しげに聞こえるかもしれないが、意味合いとしては「定額使い放題」ということだ。在学中はもちろんのこと、本学の卒業生であれば生涯に渡り使用することが可能である。社会人になってから学び直しの必要性を感じた場合などでも利用が可能である。ふと立ち止まって勉強したいなと思った際には大学生の頃のレポートを思い出しながら、もう一度図書館で学ぶことで開ける未来がある。大学図書館とはそういった意味で人生最高のサブスクリプションだと断言できる。

筆者自己紹介

高橋 哲也 (たかはし てつや)

本学で人的資源管理論を担当しています。授業では働く際の諸問題について講義しています。図書館には関連書籍も沢山ありますので、ぜひ活用してください。